



高松市上下水道工事業協同組合

〒760-0018 高松市天神前5番30号
TEL(087)831-5633㈹ FAX(087)861-9921

水だよ!!

高松

第2号



大口径管漏水事故復旧訓練へのご協力について

水道局お客さまセンター 所長 小川雅史

厳しい猛暑も和らぎ、組合員の皆様には日頃から水道事業にご協力をいただいておりますことに対し厚くお礼申し上げます。

さて、道路上から屋内までの水トラブル等に対しましては、24時間365日待機体制のもと、迅速、正確な対応をしていただいており、早や3年間経過するなか、お客さまからも素早い対応と適切な処置にお礼の電話をいただいており、改めて感謝申しあげます。

ご承知のとおり、水道は安全な水を断水なく安定供給することが最も求められておりまして、本市水道も創設80周年を迎える老朽施設も抱え維持管理が特に重要な役割を果たしています。こうしたなか、特に大口径送配水管の経年による老朽化、腐蝕および道路工事等の外的要因による不慮の漏水事故等が一旦発生すれば、断水等市民生活や道路交通の混乱により、地域経済活動に多大な影響を及ぼす恐れがあります。このような被害を最小限に止めるためには、復旧への迅速な対応等危機管理策の向上が求められています。

このため、平常時から水道局と貴組合とが連携を密にしながら大口径管の継ぎ手調査や修繕工事を通じ、有事に適確に対応できるよう努めるとともに、今秋には大口径管漏水事故対策本部設置要綱に基づき、大口径管漏水事故復旧訓練を実施する予定であります。

組合員の皆様には、ご多忙のなか恐縮に存じますが、この訓練を成果あるものとするため、格別のご協力を賜りますよう重ねてお願い申しあげます。

公共下水道未接続家屋実態調査業務の協力について

河川等の水質汚濁の防止や、生活環境の改善（トイレの水洗化）を図るため、高松市では公共下水道の整備を行うなどをして、生活排水対策を積極的に推進されています。

当組合も市下水道行政に協力する事になりました。左記の公共下水道未接続家屋実態調査区域内に、組合の調査員を派遣して、下水道の未接続世帯の皆様に、一日でも早く下水道に接続していただきたく、実態調査に協力する事になりました。

——記——

期間／平成14年9月1日～平成14年11月30日まで

調査区域／本庁地区……上福岡町

太田地区……三条、今里町、今里町一丁目、今里町二丁目、

木太地区……木太町（1・2・3・4・5・6・7・8・9）

屋島地区……屋島東町、屋島中町、屋島西町

川添地区……元山町、東山崎町、下田井町

多肥地区……林町、六条町

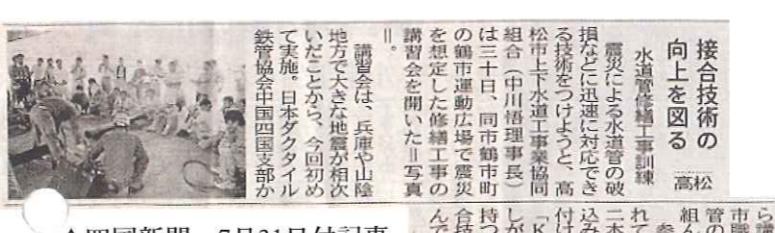
技術委員会

北風 幸男

前より、鉄管接合講習会を栗本鉄工所（大阪）にお願いして、毎年、一泊二日の日程で行っています。本年も、五月に行いましたところ、「組合で開催してみては」との話がもちあがり、技術委員会で協議し、話がまとまりました。又、理事長と水道局修繕係との話し合いも進み、七月三十日に、災害対策修繕訓練技術講習会を開催の運びとなりました。

今後も、このような講習会が開催できますよう、委員会・組合員ともに勉強していきたいと思います。

今後とも、ご協力の程よろしくお願い致します。



▲四国新聞 7月31日付記事



▲建設新聞 8月9日付記事

施工業者募集

組合と契約している修繕業者で自社施工できる方（穿孔工事も含む）

■舗装打ち替え箇所の漏水防止工事（鉛管取替）

- イ. 亀井町～常磐町線 5か所……12月～2月予定
ロ. 県道高松線停車場～栗林公園線 20か所……9月～12月予定

■上記締切日／平成14年9月10日（期日厳守）

◎協力会員紹介



創業50周年を迎えて

(株)川西水道機器 代表取締役

川西 秀明

平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

弊社は、皆様のご厚配により、今年で創業50周年を迎え、「水道管継ぎ手」の専門メーカーとして、これまでに多くの製品を開発してまいりました。この半世紀にわたり、地元高松において多くの水道事業に貢献できることをたいへん光榮に思つております。

さて、近年の水道業界を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、弊社にとつても大きな転換期にさしかかっています。これまで以上に創意工夫が必要であり、そして何よりも、市場ニーズ、顧客ニーズをいち早く察知し、製品開発につなげていくことが、課題になつてくると言えます。

貴重な水を一滴も漏らさず送り届ける技術が私たちの使命であり誇りと考へております。創業より、培われた信頼と技術を基に、更なる技術ノウハウと探求心をもつて、市場ニーズに素早く対応し、皆様に喜ばれ、満足される製品とサービスを創出して行きたいと存じます。また企業としても皆様からより高い信頼を得られるよう努力していく所存です。

今後ともより一層のご支援ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



より豊かな暮らしのために。

前澤給装工業(株)

中丸 昭人



野球進化論

中山建材(株)

多田 真



暮らしと水をむすぶ

前田パルプ工業(株)

前田 康雄

平素は格別のお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

私たち前田パルプ工業の事業分野は、ふだん何気なく使つてゐる水道のもつとも基礎的な部分を担う、比較的地味な分野といえます。人々の消費生活と直接関わりあうような華やかなものではありません。しかし、私たちの技術と製品は、人々の豊かな暮らしのかげの力として大きく役立つています。

配水管から給水管を分岐し、家庭に給水するための分水栓、家庭に給水を開始したり停止する止水栓、そして給水管をつなぐ継ぎ手などを一貫生産しています。いわば、水道事業の支えとなり、それを通じて人々の豊かな暮らしに寄与しているのが、私たちの技術と製品なのです。今、うるおいに満ちた21世紀を目指す社会にあって、多くの人々がより豊かに暮らしていくための基盤づくり、環境づくりが進められています。水道事業もそのひとつです。水道は、生活に一日たりとも欠くことのできないものであり、産業を支え都市に活力を生み出す重要な基幹施設です。

今後ともより一層のご支援ご鞭撻の程、宜しくお願ひ致します。



「懐かしさは、暖かい」

三和鋼管(株) 高松営業所

二木 章弘

胸がキュンとなる風景に出会うことがあります。車で走行中、「ふと」目に飛び込んできた景色。

ほんの一瞬だけ、言葉では表せない懐かしさ。その余韻が、嬉しさやせつなさを、昔この場所で経験したかのような感覚を、よみがえらせてくれます。

dcp. 01 (デジヤピュード)

そんな言葉で片付けられない、「何だかよく解らない何か。」が、体の中に残っています。あまりに懐かしくて、もう一度その場所を通つてみても、二度とその感覚は戻つてこない。そんな経験をしたことはないでしょうか?

風に揺れる木の葉、光のある屋根の色、影の作る微妙なコントラスト。そして、まばゆく映る「緑」。水に映るきらきらした輝き。私たちの体の細胞一つ一つにそんな風景が沁み込んでいて、いつもそれを求めているのがもしされます。

企業努力を継続すること。そして、厳しい毎日の中で、隣の田んぼの稻が、少しずつ大きくなつてゆく様子と、暖かい緑を感じる。そんな少しだけの、心の余裕を持つことも必要なかもしれません。

もし、胸がキュンとなる懐かしい風景に出会つたなら、ぜひ一度、立ち止まつて周りを見渡してみてください。

とても幸せな、優しい気持ちになるかもしませんヨ!

日々加速度を増して進化する現代社会。さまざまなお先進の技術がさらに高度な技術を次々に生み出し、さまざまな最新の機器が人々の暮らしをより便利なものにしていきます。こうした時代の流れの中にあって、近年特に人々の注目を集めているのが環境問題。生活者たちは、身近な便利さを求めるばかりではなく、広く一段と快適な環境の実現に強い関心を寄せています。

例えば、生活を取り巻く水。これも重大な環境問題の一課題となっています。河川や水源を美しく保ちたい。飲料水をより安全に、よりおいしいものにして欲しい。人々の願いは確実に増大しております。いまや飲料水を買う時代。水に対する品質や安全性が重要視され始めた今こそ、発想も新たに未来に向けて一層の努力を重ねる時と考えます。

もはや自然の中から「きれいな水」「安全な水」「おいしい水」を簡単に手に入れることはできない。水のクオリティは、人間が管理しなくてはならない。

私達は、今後も各家庭にさらに良質の命の水を手渡す努力を重ねます。磨き抜いた技術としなやかな発想で、より快適な暮らしとより豊かな社会の実現に貢献したい。さらに一段と品位の高い未来の水の開発についても、積極的に取り組んでまいります。

今年の夏も、甲子園では連日熱戦に繰り返されました。もちろん私も好きなほうなく、休日はテレビの前に陣取り観戦しました。基本的に劣勢を強いられているチームがいかにして追いつき逆転するかその作戦、戦術、監督同士の読み合戦といふところが見ていて面白く、また興奮する場面でかく言う私も20年ほど前は高校球児であり、そのためのレベルと現在を比べると大いに進化している。当時の投手もいなかつたが、最近ではあたりまえのようにどの投手も球種として持つており、またフォーク、シンカー、チエンジアップ等たての変化を決め球として使う投手も多い。

こうなった背景として打者の能力アップが金属バットの性能、または最近ではどの学校も機械を取り入れた筋力アップにより、最近よく言われる打高投低につながっているように思われる。速球のスピードは当時も今くらい早い珠を投げる者はいたが、今のように簡単に打てなかつた。ピンチには速球でおくる投手が多かつたが、今では変化球を決め球にする有名な選手がプロへ行つても数年で肩や肘を壊し引退していくパターンが、野手に比べ多いのも事実である。道具ばかりが進歩し、体も機械に頼り体そのものの特性を殺してしまい、自然の発育をも妨害しているのです?

どんどん進化していく中で投手劣勢の昨今。高校カーブのみ、打者は木製バットを使用、高校野球連盟様この案いかがなものかと提案いたします。

どうも幸運な、優しい気持ちになるかもしませんヨ!

